

1. 公開シンポジウムが開催されました 「大学の資源を地域の教育に活かす～大学博物館の目指すもの～」

2008年1月24日(木)、高松市生涯学習センターまなびCAN多目的ホールにて、公開シンポジウム「大学の資源を地域の教育に活かす～大学博物館の目指すもの～」(主催:生涯学習教育研究センター、共催:大学博物館)が開催され、県内外から約90名が参加しました。

2008年4月には、教育学部1号館1階に香川大学博物館がオープンしますが、本シンポジウムは開館に先立ち、大学博物館のあり方について検討することを目的として開催しました。

シンポジウム当日は、まず林良博・東京大学総合研究博物館長の基調講演「資料からはじまる、知的探検の楽しみ」が行われ、続いて丹羽佑一・大学博物館長から「香川大学博物館の現状と課題」、田井静明・香川県歴史博物館主任専門職員から「地域博物館の実態と大学博物館への期待」、そして清國祐二・生涯学習教育研究センター長から「生涯学習の拠点としての香川大学」について発表がありました。その後、林館長と三者、および会場を交えてディスカッションが行われました。



【林良博館長の基調講演の様子】



【左：後半シンポジウムの様子、右：熱心に耳を傾ける参加者】

大学が収集・保存している資料はもちろんのこと、香川県内の貴重な資料が散逸してしまうことのないよう、大学博物館が果たすべき役割は数多くあること、そして地域社会からの期待も大きいことが、本シンポジウムによって改めて認識させられました。

2. 参加型学習への誘い～センター担当教員の研究・実践紹介(5)～

①参加型学習の効果とは何か

参加型学習は、講義等の一方向の学習スタイルに比べて学習者の満足度が高いと一般的に考えられていますが、それはなぜでしょうか。まずは効果とは何かについて、参加型学習の特性から考えてみたいと思います。

まず、典型的な参加型学習の展開を思い浮かべます。大きく3つの構成、個人ワーク、グループワーク、振り返り・共有化ワーク、で成り立っています。個人ワークは、学習課題について自分自身の過去の経験や知識、感性と向き合ってまとめる作業になり、グループワークの中で「埋没しない」自分自身をつくる作業でもあります。(実はとても大事な作業です。)グループワークは、基本的には個人ワークの成果を持ち寄って討議したり、ともに創りあげる形式をとります。グループの雰囲気は支持的かつ受容的となるような風土づくりが前提となりますが、各々の意見はメンバーから尊重され、自由な発言がうながされます。加えて、さまざまな意見や価値に触れることによって、自分自身の思考や行動の特性が相対的に明らかとなり、新しい発見につながります。グループ内ではメンバーの関係が徐々に形成され、自然発生的に役割ができてきます。振り返り・共有化ワークは、グループワークの振り返りの時間となりますが、そこでは何を学習したかというより、グループワークを通して自分自身の何がどう変容したのかを確認できるという効果

的で、学習を通して人間的な成長を遂げる実感を味わう時間となれば次につながります。

次に、参加型学習は「課題解決を目指す学習」に適していることと、「メタ学習(学習の方法を習得する学習)」の要素をもっているという特性があります。生活者である学習者にとって課題解決は切実な問題であり、実践的で役に立つ方法を身につけたいという意識が強いのです。参加型学習を通して課題解決への道筋がたったと実感できたら、その学習経験は別の課題に直面したときに、活用できる方法論として生きてきます。

さらに、参加型学習を通して学習プロセスとその成果に満足感が得られたら、結果的に学習者間に良好な人間関係ができていくという特性をもっています。その関係が生活場面での課題解決を進める原動力となるかも知れませんが、人的ネットワークが予想もしなかった方向へと展開するかも知れません。このように参加型学習とは、単なる学習活動にとどまらず、関係づくりに貢献し、多くの副産物をもたらす可能性が認められるのです。 文責:清國祐二 (②以降は、次号に続く。)

3.『香川大学生涯学習教育研究センター研究報告第13号』ができました

当センターでは毎年度『香川大学生涯学習教育研究センター研究報告』を発行しております。生涯学習を研究する本学教員、センターが主催する講座等を担当した本学教員、また、センターが主催する講座等を担当した学外講師で編集委員会が認めた者であれば、どなたでも投稿することができます。

今年度も担当教員に加え、センター外のお二方よりご投稿頂きました。次年度もぜひ積極的なご投稿をお願いします。

<第13号掲載論文>

- | | |
|-----------------------------------|--------------------|
| ヤーコブ・ブルクハルトの公開講義 | 中谷博幸(教育学部) |
| 大正時代のナショナリスト上杉慎吉について | ノイマン、フロリアン(大教センター) |
| 高度情報社会における子育て支援の新しい試みとその検証(3) | |
| ～携帯子育て掲示板の運用指針についての検討～ | 清國祐二(生涯学習センター) |
| 香川大学教育学部生によるラジオ番組制作 | |
| ～文部科学省現代GP「実践的総合キャリア教育の推進」の取組として～ | 山本珠美(生涯学習センター) |

4. 新刊紹介

香川正弘・鈴木眞理・佐々木英和編『よくわかる生涯学習』
ミネルヴァ書房、2008年3月刊行

* * * * *

ミネルヴァ書房の“やわらかアカデミズム・<わかる>シリーズ”中の一冊。生涯学習という言葉が登場して四半世紀以上経つにも関わらず、その領域があまりに膨大であるためか、人によって使い方はまちまちというのが現状です。

本書は大学の教科書として執筆されたものですが、生涯学習の理念・思想、生涯にわたる人間形成、学習振興策、等々、論点が幅広く整理されています。

* * * * *

<担当執筆章> 第IX章「施設に基づいた生涯学習活動」より図書館、博物館の項
第XI章「諸外国の生涯学習」よりイギリス、アメリカの項 (以上、山本珠美)



センター雑感

先日、教育学部で担当している授業の一環で、FM高松のスタジオにて番組収録を行いました。学生と共にラジオ番組を一から企画し実際にオンエアしたのですが、学生のみならず教員の私にとっても大変貴重な経験となりました。この経験をセンター業務にも活かすべく、ただ今ネット配信を考案中です。乞うご期待！(山本)

バックナンバーは下記のWebサイトに掲載されています。是非ご覧下さい。

Tel. 087-832-1273 Fax. 087-832-1275 URL. <http://www.kagawa-u.ac.jp/lifelong/> Email. syogse@ao.kagawa-u.ac.jp